

認定心理士の会から

公開セミナーへのお誘い

認定心理士の会の目的には、認定心理士の方々の相互連携や資質・技能の向上をはかることが含まれています。地域ごと、およびオンラインの支部会が開催する公開セミナーの多くには、認定心理士の方はもちろん、関心のある方はどなたでも自由に参加していただけます。

たとえば中国・四国支部会では、最近では次のようなセミナーを開催させていただきました。

2020年度は「ワーキングメモリからみた発達障がいと児童生徒の学習支援」のテーマで開催。子どもと関わる臨床現場に携わっている方々や、学校の先生方、そしてまさに子育て中の親御さんなど、さまざまな立場の方々にお越しいただきました。

2021年度のテーマは「司法・犯罪領域における心理学の貢献」。コロナ禍が始まってから一年が経とうとする時期で、Zoomでのオンラ

イン開催となりました。それにより中国・四国以外の各地からのご参加が多く、また半数近くが会社員や自営業・パート職の方々でした。

セミナーの会場に身を置くと、日頃さまざまなお仕事や活動に携わりながら、心理学に高い関心を持って学びの機会を求めていらっしゃる多くの方々に出会えます。Zoom開催の場合も、上記はミーティング形式でしたので、実施中も各地からの参加者の方々のご様子を拝見することができました。

セミナーの内容はもちろんのこと、そうしたみなさん同士のお姿に触れて刺激をいただけるのも、公開セミナーの魅力ですね。

認定心理士の会が実施している多くの活動は、ニュースレターでも紹介されています。認定心理士の会のwebページにあるバックナンバーもぜひご覧ください。<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai02/>

(認定心理士の会運営委員会委員 山崎理央)

若手の会から

学部生・高校生プレゼンバトルの 動画編集を行いながら

今年度は、第85回大会における「学部生・高校生プレゼンバトル」の企画に関わりました。研究計画・成果に関する発表を、動画にまとめ、大会期間中に公開するという内容です。

企画参加者の皆さんの中には、今回で初めて学会発表を経験する、という方もいたかもしれません。オンライン発表形式は、対面形式とはやや手続き的に異なる部分もありますが、学会参加経験の少ない中で、聴衆の顔を想像することができ、スライドの見やすさや発話の聞き取りやすさに多くの工夫を凝らすことができるのは素晴らしいことだと、企画の動画を編集しながら感じていました。私はそうしたメタ認知がなかなかできず、初めて学会に参加した際は、不備のあるポスターをそのまま発表してしまったことがあります。

実際に学会に参加してみて気づきがあるかも

(あるいはあったかも) かもしれませんが、発表資料はお客さんの目に留まって初めて話が膨らむことが多くあります。知らない相手と知らないことを話題とするのは難しいので、相手に事前知識を与えるきっかけになってくれます。だから、わかりやすい発表づくりは出会いの掴みとして大切にしたいことだと思っています。

発表をわかりやすくする手法は、経験的技術の一種だと思っています。経験が少ない若手の我々が、経験豊富な他者の視点を参考にすることは大切な行動です。具体的にいえば、高校生なら顧問の先生や、学部生ならば院生の先輩や指導教員にたくさん相談をすると良いかもしれません。中には守らないといけない作法等があるので、自分一人で作業をしてしまうのは危ないかもしれません。しかし、身近に相談相手がない場合もありますので、若手の会の幹事として、こうした情動的に不利のある学生に手助けできる方法はないかと考えています。

(若手の会幹事 前澤知輝)